担当所属名：市民健康部健康づくり課

会議名：令和6年度長崎市献血推進協議会

場 所：長崎市役所 9階中会議室

日 時：令和7年1月21日（火） 14：00～15：40

- 議 題：1 会長及び会長職務代理の選任について
2 長崎県の血液事業について
3 日本赤十字社の血液事業の現状について
4 長崎市の血液事業について
5 その他

審議結果

出席委員：中谷委員、上田委員、辻委員、岩満委員、瀬川委員、加世田委員、
楠本（千）委員、楠本（博）委員、宍戸委員、久松委員
（13名中10名出席）

関係機関：長崎県薬務行政室 山崎薬剤師
長崎県赤十字血液センター 木下所長、藤本事業部長、出口献血推進課長、
橋口浜町出張所長、中村推進一係長、永井主事

事務局：健康づくり課 古賀課長、内山係長、皆良田係長、今崎

- (1) 委員の互選により中谷会長及び会長の指名により上田会長職務代理が選任された。

会長（あいさつ）

- (2) 長崎県の血液事業について、長崎県薬務行政室山崎薬剤師が説明をおこなった。

委員

長崎県の献血事業の状況についてご説明いただいたが、この数値は全国と比べた時にどうなのかと感じた。長崎県でいけば、概ね設定された目標に対する達成率が非常に高い状況にある。他の都道府県と比較したらこの状況はどうなのか疑問に思った。

もう一つは、実際確保できている献血量を見た時に、献血が足りているのかを聞かせていただきたい。

赤十字血液センター

他の都道府県の献血の達成状況を細かいところまでは把握できていないが、全国を見た時、輸血用の血液は安定的に滞りなく供給できていることは確認できているため、医療機関への供給は過不足なくお届けできている状況である。

県内の献血量と医療機関への供給についても、過不足なく安定的にお届けできているためご安心いただければと思う。

委員

献血者数の年齢別構成比の令和6年度について、16～19歳が極端に少なくなっている要因は何か。これは3月末時点での数字か。

薬務行政室

令和6年度の実績は9月時点。若年層でいうと、高校献血が年度末になると時間が空いてきて受け入れてくださるところが増えるということもあるので、今後伸びる余地はあるのかなというところ。

委員

1回目をどうするかというのが一番重要かと思う。1回してみれば、こんなもんだというのが分かって、2回目3回目とやってみようとなると思うので、初回献血者をいかに増やすかということに力を入れていただければと思う。

- (3) 日本赤十字社の血液事業の現状について、啓発DVDを含め長崎県赤十字血液センター木下所長が説明をおこなった。

委員

献血バスのスケジュールを見ているが、病院や役所でされていることが多いがショッピングセンターがあまりない。PTAの連合会でイベントを計画しているが、ちょうど子育て世代の献血の数が少ないようなので、イベントに重ねてすることでその年齢層に献血の意識づけをすることができると思ったが、イベントに献血バスを出してもらって1時間とかでしてもらうことは可能なのか。

赤十字血液センター

病院や県庁は平日に行かないと人がいないため基本的には平日、ショッピングモールは

人が集まる土・日曜日といった組み合わせで実施している。

イベントについては、こちらはどんなイベントがあるか把握できないため、ぜひ教えていただければと思う。その日・時間を有効に使うため、ある程度人が来ていただけるということを話し合わせてもらって、規模によって時間等の調整をできればと思う。

委員

昨年 1 月にブリックホールでイベントをし、健康づくり課にブースを出してもらったりした。献血のイメージとして、先ほどの動画であったように、痛いのではないかと、時間が結構かかるのではないかとというイメージを持たれている若い方が多いと思う。血を抜いたら貧血になるのではないかとというのも聞く。今、職場体験など子どもと大人が楽しんで学べるイベントを企画している。人もたくさん来るであろうというところと、献血バスを利用できなくても動画を流すだけでも献血の必要さを認知できるのではないかと考えた。これから相談させていただいて、こういった動画を流させていただくとかブースを出させていただいて献血の必要さを伝えてもらえたらいいのかなと思った。

委員

50回100回と献血している人は、特に何もしなくても生活習慣になっていて献血に行く。献血の回数が少ない人をいかにつかむかが重要。高校生の献血状況が令和 5 年度に若干増えているが、こういった分析をされているのか。

赤十字血液センター

一つは新型コロナからの復活があると思うが、学校献血をなるべく復活しようというところで数年前から力を入れているのでその成果が若干実を結んだと思っている。

委員

献血推進 CM コンテストの動画を YouTube にも載せているということで、効果があったのかと思った。若者は Instagram をよく見ているので、SNS を活用して PR してもらったと思う。また、入口の一つは高校生だと思う。浜町で高校生が献血を訴えているが、高校生同士で通じるものがあると思うので、青少年赤十字や関連高校で PR してもらったと思う。

市役所の中で庁内の放送を聞いたことがある。課長から職員にメールで PR をされているのか。

健康づくり課

各課の所属長に依頼したりやメールシステム内の掲示板で職員に呼びかけを行っている。

委員

市役所、県庁もそうされていると思うが、大きな事業所でも同じようにその職場の課長の理解があって行きやすいように事業所にも PR されていいのかなと思った。

赤十字血液センター

高等学校の献血の推進についてご意見いただきありがとうございます。令和 4 年度から 5 年度にかけて各学校献血のご協力のおかげで回ったということもあり、令和 4 年度より 5 年度の方が学校の中に献血バスを乗り入れる校内献血の実施校が 3 校増え、令和 4 年度よりも高校生の校内献血に人数が 100 名近く増えていることも、令和 4 年度から 5 年度にかけて増えた要因の 1 つと思っている。長崎西高校でも令和 5 年度に 30 年ぶりにご協力いただけたので、こういったことも引き続き継続して取り組んでいきたいと思う。

(4) 長崎市の血液事業について、健康づくり課古賀課長が説明をおこなった。

(5) その他

(意見等無し)